

## 集団発想法による授業づくり

～ブレン・ライティング法とKJ法を織り交ぜた「ARA・SHI式」ミーティング法～

熊本県立荒尾支援学校

### I 目的

本校小学部では午前中の教育課程に生活単元学習を帯状に設定し、季節や学校の行事、子どもたちの興味・関心、生活上の課題などを、児童の実態の状況に応じて年間を通して学習計画を立てています。しかし、近年の子どもの教育的ニーズの多様化にともない、授業を考えていく際の意見集約や、共通理解の時間が不足しがちになり、発言する教師が限定され、個々人の貴重な意見が反映されにくいなどの課題が挙がってきました。また、キャリア教育を研究主題に据え、学習指導案の改定をしましたが、「育てたい力(キャリア発達段階表)」の意義付けをどのように学習指導案に盛り込んでいくか、どのように授業を構造化するとよいかなど、戸惑いが見られました。そこで、上記の課題を解決するために「ブレン・ライティング法」と「KJ法」の手法を用いることにしました。この技法を用いることで、多くの職員の意見を集約し、個人の意見を最大限に発揮させ、互いに学び合う組織づくりをねらっています。また、相互のコミュニケーションを図りながらキャリア教育の理解につなげ、効率的で効果的な授業づくりを目指しています。

### II 方法

- 1 参加者：小学部に在籍する教員14名
- 2 司会者：各単元担当者
- 3 実施時期：授業実施日から1ヶ月前以上。  
原則として月に各2回ある学部会議または学部研究会の時間を使います。(昨年度は年間で7回、今年度は4月から3回実施)

#### 4 ブレン・ライティング法の手順

- ① 課題を設定します。
- ② 環境を整えます。  
ア 6～7人ほどのグループ編成。  
イ 円や四角の形で机を設定。  
ウ 右のようなシートを一人1枚配付。

テーマ			
	A	B	C
1			
2			
3			

ブレン・ライティングシート

- ③ テーマに従って、右のシートの最初1の空欄に、3分間で3つのアイデアを付箋紙に記入して貼ります。
- ④ 3分たったら、司会者の合図で、全員一斉に、自分のシートを自分の左の参加者に渡します。
- ⑤ 次に自分の右側の教師から回ってきたシートの2の空欄に、1の欄に記入されたことから連想したアイデアを前回と同じく3つ、3分間で記入します。この際、先ほど自分で書いたアイデアとは違うものを記入します。
- ⑥ この手順で、合計6～7回繰り返し、シートを埋めます。

※ ここまでの手順でブレン・ライティングを終了します。(本来のブレン・ライティング法では、その後アイデアの優先付けや構造化などをして授業の組立をします。)

## 5 KJ法の手順

- ① ブレーン・ライティングでシートを埋めた後、自分の手元に戻ったシートを見ながら、同じようなアイデアの付箋紙をまとめます。
- ② 1 畝四方の模造紙を用意し、アイデアの内容ごとに分けて貼ります。(右図参照)
  - ア 最初に司会者または一人の教師が貼り付けておきます。
  - イ 司会者は内容のカテゴリー名をマジックペンで書いたり、囲ったりしていきます。
  - ウ 他の教師は司会者と同時並行で付箋紙を貼り付けていきます。
- ③ 全員で貼り付けた付箋紙を見合い、授業づくりの方向性を確認します。

### チャレンジ系

- ・ターザンロープ等の綱渡り
- ・ダイナミックに跳べるジャンプ台
- ・ロッククライミング

### ゆったり系

- ・たくさん乗れる太ブランコ
- ・高い所から吊られたブランコ
- ・全体が見渡せる高台

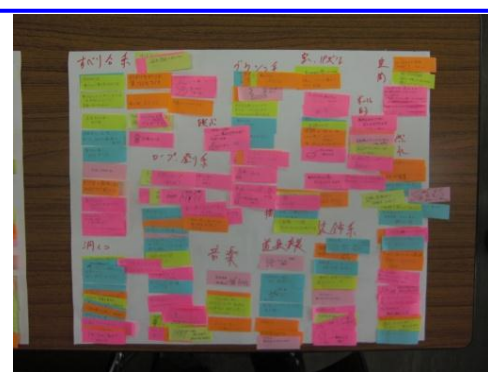
“ジャングル”をテーマとした遊び場の遊具 (KJ法で集約)

## Ⅲ これまでの成果

実施当初(昨年度)はブレーン・ストーミング法という捉え方で意見集約を進めましたが、ミーティングの進め方や手法の改善に回を重ねて取り組む中で、ブレーン・ライティング法とKJ法を織り交ぜた、「ARA・SHI式」(荒尾支援学校式)ミーティング法に行き着きました。これまでと比べ、各単元担当者の授業づくりへの時間的労力的な負担が確実に減少しました。遊びの単元や新規性を求める単元については、担当者だけでアイデアを絞るのではなく、全員参加型のミーティングにより、アイデアを募ったので対象児童に効果的な授業を展開することができました。他の教師が出したアイデアを見て、さらに新しいアイデアが浮かび上がり、その積み上げで授業づくりのヒントを得ることができたと考えます。また、本校の「育てたい力(キャリア発達段階表)」に沿って、授業内容をキャリア教育の視点で整理することができ、教師一人一人のキャリア教育を捉える力が高まっています。

## Ⅳ 今後の方向性

今年度は、「キャリア教育の視点を踏まえた学校システムの再考」という本校研究テーマで取り組む最終年度(3年目)です。特別支援教育におけるキャリア教育は、これまでの「前年踏襲型」から「学ぶ組織」「生み出す組織」に変換し、教師自身の「意識改革」と「共同性」を求め、促進するものです。教師一人一人の思いや考えを引き出し、互いに学び合う組織づくりと、チームアプローチによるよりよい授業づくりを目指し、今後も改善を重ねながら効果的なミーティングの手法を見いだしていきます。



意見集約後の模造紙



ミーティングの様子